

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291400137		
法人名	特例非営利活動法人やわらぎ		
事業所名	グループホームやわらぎ(2階)		
所在地	雲南市木次町里方84-53		
自己評価作成日	令和5年10月11日	評価結果市町村受理日	令和5年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和5年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・在宅サービスから培われた認知症ケアの質～平成20年より認知症対応型通所介護事業所を運営してきた中で培ってきた認知症の方への個別的な関わりを大切にしている。
 ・地域との関係作り～住宅街の中に「普通に」ある施設なので、近隣の方との関係作りを大切にしている。利用者や散歩をしているときの挨拶や何気ない会話、やわらぎの活動に参加して頂いたり、地域の行事等に参加している(コロナウイルス感染症予防のため、外部との交流活動はコロナ禍前のように実施できなかったが、可能な範囲で実施したり、ブログ・広報等での情報発信を行っている)。また、近隣の方からの介護保険全般についての相談も多い。
 ・スタッフが働きやすい職場環境作り～スタッフが緊張感を持ちつつも信頼し合える職場環境作りに努めている。具体的な各種制度や有給休暇や希望休暇が取得しやすい職場環境作りを行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地を見下ろす小高い住宅地の中にあり、民家を利用したデイサービスの隣で、日本庭園を眺められる静かな環境にある。認知症デイに続きスタートして10年が経過。段々と重度化し平均介護度も3以上になってきている。個別ケアに充実のために積極的に業務改善に取り組み、介護用ロボットの使用等、職員の負担軽減にも繋がっている。個々に関わる時間があることで、仕事のやりがいや働きやすさを感じている職員も多く、コロナ禍でも雇用は安定している。職員個々に専門職としての意識も高く、排泄チェック表や外出記録等、個別のケア記録も細かく記入されており、家族関係者に送る毎月の様子も分かりやすく、会議の記録には補足説明を加えるなど関係性を高める配慮が感じられる。今後にも於いてもコロナ禍を乗り越えたチームワークで個別ケア充実に取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	●採用時の法人の成り立ち、理念の説明、職員ミーティングでの確認を行っている。 ●毎朝理念を唱和するとともに、実際の生活場面で、その意義について考え生活を支援するように取り組んでいる。	開所当時に作成した理念を引き継いでいる。事業所内移動はあるが、ここ数年職員の新規採用は無く、経験年数豊富な職員が多いこともあり理念の共有に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	●法人が地域の自治会に加入し、常会・いきいきサロンへの参加(感染予防のため可能な範囲で)、ブログや広報などの情報発信を行っている。 ●地区や自治会での清掃活動に、職員が参加している。 ●日常的な散歩での挨拶や会話を通して、地域の方に利用者の名前や顔を覚えて頂いている。 ●日常的なボランティアとの交流については、今年度もコロナウイルス感染防止の為見合わせた。 ●学生等の職場体験実習の受け入れを行っている。 ●コロナウイルスの感染状況をみながら、地域のスーパーや商店へ食材を買いに出掛け機会をつくっている。	コロナ禍以前は市の介護予防事業として、地区集会所で毎週行われていた体操やお茶会に入居者の方と一緒に参加し、情報提供をしたりレクリエーションを楽しんだりしていたこともあった。ここ数年中止が続いていたが、サロン活動が復活したので久し振りに参加している。法人として毎年参加していた近隣の祭りは、今年度も中止となっており、地域と関わる機会はまだまだ限られているが、清掃活動への参加や、中学生の職場体験等、事業所としてできるだけ関りの機会を持つよう考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	●自治会のいきいきサロンの方を対象に「情報提供」を実施予定。広報やブログ等で情報発信を行うことで、認知症の方への理解が広がるよう努めている。 ●地域での清掃活動に、職員が参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	●コロナウイルスの感染状況をみながら、会議を行うか資料を送付している。 ●利用者の活動状況、受診・往診状況、職員の研修状況等の定期報告に加え、「利用者の一日の過ごし方」「コロナウイルスに関する対応」等の紹介も行った。	家族代表、自治会長等地域からの出席者、市、包括、有識者など8名で構成されているが、新型コロナウイルス感染症の影響が続ぎ、集合して開催したのは5月1回のみで、あとは文書開催となっている。入居者の状況や行事等の活動報告、職員の研修、新型コロナウイルス感染症対応などを伝え意見をj得ている。文書開催で伝わりにくいため、補足説明を加えるなどの配慮が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議の参加者に、雲南広域連合・包括支援センターの職員も含まれており、情報提供や情報共有を行った。 ●家賃等助成事業(雲南広域独自)の事務手続きのほか、サービス全般にわたって情報交換を行っている。 	直接的な関りは多くないが、運営推進会議には市の介護保険課や包括から参加を得たり、文書を送付し意見を伺ったりしている。空き情報など問い合わせを受けたりといい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ●身体拘束防止委員会を設置、利用者の人権尊重について、採用時や、普段のミーティングや職場内研修の中で、啓発を行っている。言葉も含め行動の制限をしない等、身体的、精神的に拘束をしないケアに取り組んでいる。 	ヒヤリハットや事故報告の事例については部署内で検証し、再発に繋がらないよう対応を共有するようにしている。転倒等のリスクを高い方には、見守りシルエットを活用することで安眠と事故防止に繋げるなど、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の虐待防止について、普段のミーティングの中で啓発を行っている他、外部研修へ参加したり、内部研修においてもテーマとして実施し、普段の何気ない言動も不適切ケアにつながっていないかという意識を持ち、日々のケアを振り返る機会を設けた。 ●住宅街の中にある施設なので、地域の方の目が届きやすい。また、職場体験等、施設内をオープンにしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ●適宜研修受講により各種福祉制度の理解を深めている。 ●必要に応じて、行政や社協、保険者などの関係機関と連携をとっている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ●利用契約の都度、重要事項の説明を丁寧に行い、契約の締結を行っている。契約に関しての苦情等はない。 ●個人負担の改定の際は、説明文により理解・納得を得ている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ●家族の来所時や電話、テレビ通話等で、日々の様子を伝えたり、要望などを聞くようにしている。 ●毎月、利用料請求書送付と同時に、生活の様子が分かるように写真付きで近況のお知らせの文章を送付している。意見や要望を伝えやすいよう情報提供を行っている。 ●利用者からの要望も日々の関わりの中で汲み取るように丁寧に関わっている。 	毎月写真入りで様子を伝えている。健康、食事、入浴、生活、外出、掃除、行事などの項目別に詳しく記入し送っている。デイと一緒に3、4か月に1回広報も送り、意見を得る機会としている。コロナ禍が続くこともあり、家族への連絡機会も多く、衣替えでの荷物の入れ替え時を利用したりして、その都度要望、意見等聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の業務に反映できるよう随時意見を聞き、細やかな改善は行っている。また、運営に関する提案を受け入れる体制にしている。 	普段は出やすい意見も会議等ではなかなか出にくい為、管理者は声掛けして意見を聞き出すようにしている。職員は毎年個々に目標を作成しており、資格取得を目指す人も多く、レベルアップに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ●社会保険労務士と年間の指導契約を行い、就業規則や給与規程等について、職員が向上心を持てるよう職場環境・条件の整備に努めている。 ●職員各自の提案や、自己研修への取り組み、外部研修の復命書等のレポート提出の評価を行っている。 ●特に子育てをしている職員への配慮や産前産後、育児休暇(男性も含む)家庭内で家族の介護をしている職員への配慮や、介護休暇を導入している。 ●職員数を多く配置し、特に有給休暇を取得しやすいような配置となっている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>●職場外研修(オンライン研修も含めて)は参加できるよう配慮している。</p> <p>●職員のレベルに合わせて力量アップが図れるような研修への参加を促し、職員を育てる取り組みを行っている。</p> <p>●今年度は、OJT研修を通しての職員育成も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>●雲南地域介護支援専門員協会、雲南地区グループホーム・小規模多機能事業者協議会等に参加している。また、開催されている研修会等についても、コロナウイルスの感染状況によって参加している。</p> <p>●同業者間で、業務上の情報交換も行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	●入居前に可能な限り本人や家族の面接、自宅などの住まいへも訪問を行う。このことが入居後の安心感に繋がる。 ●入居後は特に環境の変化もあるため、不安解消に取り組みながら、本人の思いや要望を受けとめ、安心を確保するために職員がケアの共有にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	●上記の通り。 ●本人の日常生活の状況を聞きながら、家族の心境や利用にあたっての心配事や要望など、家族の思いを受け止め、サービスに反映するように努めている。 ●入居直後は、特にご家族と連絡を取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	●グループホーム入居前のサービス利用状況や在宅での生活状況についてアセスメントし、初期対応に繋げている。 ●必要時、インフォーマルサービスを検討する。 ●初期におけるアセスメントで、その時点で抱えているニーズを職員間で共有し、サービス利用時より対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	●食事の準備や片づけ、掃除、洗濯物たたみなど様々な生活場面で、個々の能力に応じ、できる限り利用者のペースにあわせながら、利用者と職員が共に行動し、生活するスタンスを大切にしている。また、その日の予定を利用者と一緒に相談するようにしている。 ●利用者が自発的に掃除用具を手にとったり、自由にお茶を飲んだりできるよう、置き場にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	●コロナウイルスの感染状況に応じて、多目的室での面会や、窓越し、玄関スペースで距離をとり、可能な限り顔を合わせた面会を実施した。面会時、あるいは電話やテレビ通話にて様子報告をしながら、生活の状況や支援の方法について共に考えるようにしている。 ●自宅への日帰り外出(お盆に自宅へ帰ることや、遠方から帰省した家族と自宅で過ごす等)なども、コロナウイルスの感染状況をみながら、希望に応じて行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	●コロナ前に比べ買い物に出掛けることは減っているが、コロナウイルスの感染状況をみながら感染対策を行い、地域のスーパーや商店に出かけたり、ドライブなどで馴染みの場所へ出かける機会をつくっている。	以前はそれぞれの地域でサロン活動があったため、その地域出身の方が参加できていたが、コロナ禍で中断。別な形で集まりが始まっており今後は参加する意向。隣のデイの方と会う機会だったり、暑中見舞いや年賀状を出すことで今までの関係性が続くよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	●利用者同士が、親しい関係づくりができるよう日々の生活状況を観察しながら、会話や交流において、職員が間に入り、円滑な関係と楽しい会話ができるよう配慮したり、リビングでのテーブル席も工夫している。階を越えて、関係性を大切に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	●利用者の退去後については、家族にその後の様子を聞くように努め、支援が必要であれば、いつでも協力できることを伝えている。 ●再入所申し込みも支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	●日々の会話の中で、思いや希望を聞くようにし、可能な限り実行できるように努めている。 ●意思疎通の困難な方には、家族から意向を聞いたり、普段の言動や表情を把握しながら、その時々々の想いをくみ取り、思いに沿ったケアを職員間で検討し、実施に努めている。	普段の会話の中で出た言葉を聞き取るようにしたり、言葉の出にくい方も表情の変化から感じるようにしている。何でもしたい、役に立ちたい、仲良くしたい、元気になりたいなどの声が多く聞かれており、以前の生活の中で、好きだったこと、大切に考えていること等も含め、ここでの生活に繋げられるように計画している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	●生活歴について家族から聞いたり、本人との会話の中から把握をしている。生活歴の中で培った趣味や興味、特技を、現在の利用者の状態に合わせて、生活の中に取り入れたり、支援を見直す検討材料にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	●毎朝のバイタル測定、皮膚観察等の他、会話や行動をさりげなく観察することで、心身の状態を把握している。日々変化する状況を職員間で共有し、それらを踏まえ、支援を行っている。それを記録に残すことで、職員間の情報共有が出来る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	●介護計画の作成については、本人、家族、関係者の要望や気づきを取り入れた内容となるように努めている。介護職からの情報収集だけではなく、看護師や必要時は主治医の意見も聞くようにしている。モニタリングやアセスメントでは、職員の意見も聞き取るよう努め、見直しを行う。	モニタリングを3か月に1回まとめて記録している。日々の様子はケース記録に記入し、それをまとめることで実施状況とし評価に繋げている。コロナ禍の為、本人を含めて家族や関係者が多く参加しての担当者会議はできていないが、短時間の面会時や電話等で意見を聞き計画作成に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	●個別記録は、介護計画の支援内容に沿ったものにしており、日々の様子やケアの実践については、個人記録や各種のチェック表に記録し、職員間で情報を共有しながらケアにあたっている。変化があった時は、都度、話し合いを記録に残すことで職員間で共有したり、必要時には介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	●柔軟なサービスができるよう、隣接するデイサービスの機能や取り組み内容(認知機能低下予防の個別機能訓練)を取り入れながらケアを実施している。 ●グループホーム利用者の家族が、同法人内のデイサービス利用の際は、行き来を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	●コロナウイルス感染症予防のため、地域行事の参加は、コロナ禍前のようにはできなかったが、外出や普段の散歩を通して、地域にある自然に触れ、季節の移ろいを感じる機会をつくっている。 ●食材や個人の買い物に、地元商店やのスーパーに買い物に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	●歯科往診も含め、かかりつけ医と連携をとり、受診支援や往診、健診、予防接種を依頼し、適切な医療を受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医を継続することも、施設の協力医に変更することも可能で、定期的な往診を受ける体制が整っている。急変時の対応が可能のため家族関係者からは安心の声が多く聞かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	●介護職と看護職は常に連携を取り、介護職・看護職双方が必要な情報を伝えることにより、利用者の健康管理に努めている。 ●往診対応、必要に応じて病院や家族への報告・連絡等、病院や家族との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	●治療の状況を適宜、医療機関に問い合わせながら、早期の退院ができるよう相談をしている。医療機関の相談員等とは普段から連携を図っている。 ●入院時の情報提供、家族へ問い合わせ、退院検討カンファレンスへの参加をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	●入居時から、方針の確認ややわらぎで出来ること出来ないことの説明をしている。 ●重度化に伴う終末期の看取りについて、協力医療機関の医師、家族、施設間で十分協議し対応をしている。また、変化する状況に応じて適宜、家族への細やかな報告や話し合いの機会を持ち、ケアプランに反映し、支援を行う。 ●職員間で情報の共有をしている。	終末期の対応については、医療行為が無く、入居者本人や家族関係者の希望があり、かかりつけ医の協力が得られる場合は対応する意向を持っている。現在も全体的な介護度が高くなってきており、看取りを希望する声も多いことから、話し合いの機会を持ちながら進めることとしている。ここ数年看取りの実績はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	●コロナ前は例年行っていた消防署職員を講師に招いた救急法・AEDについての研修は、コロナウイルス感染症予防のため見合わせている。常時提示してあるマニュアルに沿って行動ができるように、確認している。また、応急手当、処置初期対応について、適宜職員間で再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	●毎年、防災避難訓練を行っている。 ●今年度は、防災避難訓練が、コロナウイルス感染予防のため、利用者参加はせず、職員のみで机上訓練を行った。 ●災害対策としてのBCPを策定中。	海山からも距離があり自然災害の影響を受けにくい場所だが、住宅地の中にある為、火災中心に訓練を行っている。隣接するデイサービスと合同で避難訓練を行ったり、グループホーム独自では夜間想定で実施したり、通報訓練や消火器等の訓練も繰り返している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	●利用者は一人の人格者として尊重し、ケアすることを運営の基本理念としている。職員がケアを行うとき、終わった時には丁寧な声かけ、労いの言葉をかけている。職員間でもお互いの言葉掛けやケアについて、指摘しあえるような雰囲気作りに努め、気になる時は、職員間で声を掛け合うようにしている。個人情報への配慮から、写真の使用については注意し、必要時は事前に家族の同意を得ている。	入浴や排泄等に関わるケアの場面での声掛けを含めた対応については、特に注意をするようにしている。虐待や身体拘束等を含めて、ケアの基本として研修や各委員会等で取り上げ、繰り返し実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	●様々な生活場面において、利用者を選択してもらうよう働きかけている。また、日々の過ごし方を、利用者と相談している。率直に表現できなくても、表情、仕草、以前のケアで良かったと思われることなどから気持ちをくみ取り、思いを表出しやすいよう、職員からさりげなく声をかけている。また、職員間で情報の共有を行っている。 ●職員の声かけを断られたり、迷われている時は、時間をおいたり、職員が交代して声をかけ、利用者の気持ちを尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	●職員側の都合に無理に合わせず、その方のペースや、その時々への思い・体調を把握しながら、食事や入浴などのケア、就寝時間などを検討している。本人の意向・希望などを介護計画に反映させた上で、変化に合わせた柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	●入浴前は、利用者と一緒に衣類を準備したり、入浴後や起床後は、身だしなみの支援をしている。外出の際の服装には特に配慮し、一緒に服装などを相談しながら選択している。選択が難しい方は、職員が本人に確認しながら、その人らしさが表現できる物を取り入れるようにしている。 ●使い慣れた化粧品等をお持ちの方は、家族に相談し、継続使用できるようにしている。 ●行事や誕生日にも化粧をしたり、合わせた衣類(お気に入りの服)を選んで着て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ●お茶口や食事に関して、味見、盛付、台拭きや、お茶を入れる等の準備、茶碗洗い等の片付けなど、利用者と一緒にいき、一人ひとりの能力に応じて関わりをもてるよう支援している。(コロナ感染状況に応じて実施) ●季節ごとの旬のものや昔馴染みの食べ物を利用者との会話を通して準備し、楽しみとなる機会をつくっている。 	主食と汁物については作っているが、副食は湯せんして食べられる物や、夕食にはお弁当を利用している。重度化しミキサー対応が必要な方もあるため、ムース食を利用することで形ある物で見た目を良くし、食欲低下に繋がらないよう配慮している。コロナ禍の為、利用者が食事に関わる場面がなかなか持てなかったが、盛り付けなどできる作業を手伝ってもらえることが増えつつある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ●個々の食事量を把握し、体調管理に努めている。水分が飲みにくい利用者には、コップ、湯呑みの大きさを変え、見た目や飲みやすさを考慮したり、好みのものや飲みやすい時間帯を把握し、すすめている。 ●刻み食で、何の料理か分かりにくいものは、お伝えし、食事を楽しめるよう配慮している。体調により食べにくければ代替えを検討したり、好みの物などを家族の協力で準備したり、時間をずらす、細目にすすめるなどの対応を行い、必要量が摂れるよう状況に応じた支援に努めている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ●起床時、毎食後、歯磨きやうがい、必要な方は、歯間ブラシ・スポンジブラシの使用を支援している。 ●口が開きづらい利用者には、口腔ケアの前にマッサージを行ったり、拒否がある場合には、時間をおき再度声掛けをしたり、さりげなくセッティングする等の対応をしている。義歯の方は、毎食後のブラシでの洗浄に加え、就寝前には薬液に浸し清潔にしている。 ●歯科医による定期的な歯の検診・ケア、不具合が生じた際は、相談し、往診で治療を受けるなど早めに対応している。また、歯科医からのアドバイスを職員間で共有し、向上に努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ●排泄状況を記録し、トイレへ誘うタイミング、トイレに座る時間の長さも含め、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄パターンに変化があった時には情報共有し、適切なケアが行えるようにしている。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。 ●状況の変化に合わせて、パッド類の見直しを検討し、個々に合ったオムツ類を使用している。失禁体操を実施したりしている。 	排泄、水分チェック表を作成し、細かく観察し記録している。排泄間隔に合わせて声掛けすることで、失敗を減らすと共に、脱水防止にも繋げている。重度で常時オムツが必要な方もあるが、排便時はできるだけポータブルトイレを用いて介助するようにしている。紙パンツ使用の方多いが、トイレに流すなどのトラブルがあった為、布パンツの使用も含めて、個々に合わせた物を利用するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ●排便の状況を個々に記録し、便秘にならないよう努めている。排便の出そうな方(日にちや様子など)を当日出勤者で把握し、トイレ時に腹部マッサージを行うなどトイレでの排便を促している。 ●可能な限り自然排便ができるよう、水分量を把握しながらこまめに水分をすすめたり、定時にトイレに座ってもらったり、歩行運動や便秘体操を行っている。便秘しやすい方には、起床時に冷たい飲み物を出したり、乳製品やバナナ等、腸内環境を整える食品を多く取り入れている。 ●自立の方には、トイレ使用後に便通の有無の確認を行ったり、入浴時に下着の確認を行い、把握に努めている。 			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ●浴槽に入るかどうか等、体調や本人の希望に合わせて行うようにしたり、湯温も好みで調整するようにしている。 ●入浴を好まれない方についても、個々に誘い方を検討し、気持ちよく向かえるよう努めているが、難しい場合には、必要に応じて陰洗や清拭・更衣などを行い、清潔が保てるようにしている。 ●入浴は、コミュニケーションの一環としての認識をもち、入浴中の会話も大切にしている。 ●利用者の状況等に応じて、入浴日には事前に伝えておき、着替えの準備を一緒にしたり、本人に準備してもらうこともある。難しい方は、職員がその人らしさを大切に選んでいる。 	重度で浴槽の中に入れない方の場合は、シャワーチェアを利用してシャワー浴対応としている。浴槽に入るかどうかは、体調や本人の希望に合わせて対応するようにしている。同性介助を希望する場合も調整し対応している。入浴は利用者と職員の1対1の時間として大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ●各部屋にはエアコンが設置してあり、安眠ができるよう室温調整したり、衣類や掛物の調整をしている。リビングや居室内には、温湿度計を置き、適宜、確認しながら、常時適温になるよう調節し、ゆったりと過ごされている。車椅子使用の方も安楽な姿勢でソファに移り、休んでもらうこともある。 ●冬場は、敷毛布の使用や、必要に応じて湯たんぽを使用したり、濡れタオルの設置など加湿対策も行うことで、就寝時の安眠を支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ●服薬の管理は基本的に職員が行い、服薬時は、声に出し、利用者と職員が一緒に確認している。 ●服薬内容をファイル化し、誰もが確認できるようにしている。個々の症状に変化があったときは、看護師と相談し、主治医に報告するようにしている。 ●服薬できたか傍で見守りを行い、錠剤の多い人は、スプーンに入れたり、口に運ぶことで、こぼれ落ちないようにしている。服薬が難しい状況がある時は、記録に残して情報を共有し、状況の把握や対策(錠剤を粉末にする等)看護師と相談し、主治医に報告ができるようにしている。 ●排便コントロールの為、下剤服用してもらう際には、職員間で排便状況等、情報共有し、用量を調整している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<p>●日々の状況を職員間で共有しながら、一人ひとりに合った役割(食事への準備や片付け、洗濯物干し、掃除等)を勧め、職員と共に行ったり、利用者同士で行い、「出来る事」「得意とされる事」を継続し、労いの言葉をかけることで生活にやりがいを持てるよう支援している。</p> <p>●季節の花を持ち寄り、生け花を得意とする利用者と生けたり、プランターで花や野菜を育て、収穫、調理を行い、季節を感じながら過ごすことができるよう支援している。</p> <p>●月の予定や行事のポスターを利用者と一緒に作り、掲示したり、行事の準備を一緒に行うことで、待つ楽しみができるよう支援している。</p>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<p>●コロナ禍前に比べると減っているが、感染対策に留意しながら、利用者の希望を聞き、ドライブや花見、新緑観賞や、地元等へ出掛けた。また、外出記録を作成し、出かけていない方にも、外出機会ができるよう働きかけを行っている。また、近隣を散歩することは日常的にある。</p>	<p>コロナ禍以前のように遠出をすることは難しいが、施設周辺の住宅地の中を散歩するようにしている。個々に外出記録を作成し、車イスや介助の必要な方でも外出できるように、バランスを考えて計画するようにしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	●金銭管理が可能な方については、本人が管理され、買い物や必要な物品、受診時の個人負担金を支払っておられる。このことは家族も了解されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	●電話をかけられる方は、希望時、家族等に電話をかける支援している。定期的にご家族から電話を受けている方やテレビ電話を希望される家族もおられ、やり取りを支援している。在宅中、携帯電話を所持されていた方は、入居後も継続して携帯電話を所持され、使用して頂いている。 ●ご家族・友人への年賀状、暑中見舞いを希望に応じて書けるよう支援し、投函している。返信のある方もおられた。また、本人の希望にて手紙のやり取りをされている方もいる。連絡先を家族に確認したり、必要な物品の準備などを支援している。 ●コロナ禍で、面会も遠慮される家族もある為、時期を見ながら、電話で話をする機会をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	●リビングにはソファや生花、本棚等を置いて、ゆったりくつろげるようにしている。また季節の飾りを作り楽しまれている。ソファに座りながらTV、雑誌を見たり、談笑できる場が設けてある。 ●利用者の状況に応じて、利用者が自由に本を選んだり、娯楽(将棋やおセロ等)が楽しめるように配置している。	中央のダイルームを囲み左右が居室になっており、ダイルームの窓は大きく外がよく見え、陽もよく入り明るい。窓を開けると風通しもよく、コロナ禍もあり定期的な換気には気を配っている。冷暖房はエアコンを利用。住宅地の中でもあり、宅地の区画が広い為騒音等の影響も少ない。窓から庭や街路樹などを見ることができ、季節の変化も感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	●共有空間には、TVやソファ、テーブル、置があり、それぞれの空間で、自分のペースで思い思いに過ごせるようにしてある。 ●一人ひとりの好みの居場所があり、自由に行き来し、くつろいでおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ●居室には、馴染みの物を持って来て頂くようお願いし、自宅で使っていたタンスやTV、テーブル、椅子等を持ち込まれている方もおられる。他、新たに必要な物も、できるだけ使い慣れた物を、家族に相談している。 ●居室にて、好きな本(家族が折を見ながら持参)を読まれたり、好きな時に塗り絵(必要な道具を家族が用意)をされている方もおられる。 ●各居室に担当の職員を配置し、片付けが難しい方は、整理の仕方を見直したり、職員と共に居心地よく過ごせる空間づくりを模索している。 	入所することで大きく環境が変わる為、少しでも落ち着けるように、使い慣れた物の持ち込みを薦めているが、家具などは大きい為、断念されるケースも多い。家族写真や趣味の作品などを、タンスの上など目に付く場所に飾り、いつでも眺められるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者が迷うことの少ないように建物内部の配置が分かりやすくなっている。また、入居されたばかりの利用者が慣れるまでは、表示をすることでより分かりやすくしている。 ●利用者が自由にお茶を飲んだりできるよう、置き場にも気を配っている。 ●トイレでも、広さや手すりの位置等慣れた所や本人が安全に使いやすい所へ案内したり、声掛けをしている。 ●リビングに掃除用具を置くことで、居室やリビングの掃除を自主的にされることもある。 		